

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

平成27年度第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会議事録

日 時 平成28年1月19日(火) 18時から

場 所 山陽小野田市役所 3階 議会会議室1

出席者 委 員 山本(普)委員長、河口委員、河野委員、林委員、平野委員、山本(克)委員

事務局 大田成長戦略室長、大谷成長戦略室副室長、芳司総合政策部長

議題1

山口東京理科大学の現地見学の実施について【資料1】

事務局 資料1を見ると26日か27日で調整したいと思う。また調整して御返事する。

議題2

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の中期目標(案)について【資料2-1、2-2、2-3、2-4】

委 員 「基本的な目標」の中の「基本姿勢」という表現は、「基本理念」の方が良いのではないか。シンプルに創意工夫や得率自尊など、大学生が簡単に理解できるものをつくったらどうか。また、経営方針と教育方針はまったく違うので、別にしたほうが良いのではないか。

事務局 経営方針と教育方針は基本的には並列的な関係であると考えている。審議会も2つあり(経営審議会と教育審議会)、どちらかを優先するという事はない。

委 員 「第2、教育研究等の質の向上に関する目標」について表現が抽象的ではないか。

委 員 「法令順守並びに危機管理に関する目標」は重要であり、大項

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

目で設けた方が良いのではないか。

委員 「法令順守」を大項目にして、「研究倫理」もその大項目に入れたら良いのではないか。

委員 「第2-2、学生への支援に関する目標」は「教育研究等の質の向上に関する目標」の中ではなく、法令順守の中に入れて方が良いのではないか。

事務局 他の大学で、学生支援が教育研究の質等の向上の中に入っていたのでそれを参考にした。

委員 学習の「しゅう」は、習と修どちらかに統一したほうが良いのではないか。

事務局 修了、修めるという文字を使っている。

委員 「知のローカル・ハブ」の「ハブ」とはどういう意味か。一般の人にも分かりやすい表現（日本語）にしたほうが良いのではないか。

事務局 ハブとは車輪の中心部をさす。最近では、ネットワークの中心のことも意味し、地方創生ではローカル・ハブという言葉を使っているようである。経済活動・都市機能・産業・インフラで結节点的な役割を満たすということで ローカル・ハブという表現をしている。

委員 Aについて、私立大学時の概念が散見され、「山陽小野田市立の」大学らしさが少ない。公立化後の違いを明確にするためにも、「地域」という表現ではなく、「山陽小野田市」と明記したほうが良いのではないか。

委員 Bについて、「アカデミック・インテグリティ」や「グローバル・エンジニアリング」などの難しいカタカナ語は極力省くべき。山陽小野田市が支える大学ということを考慮し、市民の理解は不可欠であるためわかりやすい表現に努めたほうがよい。

委員 Cについて、東京理科大がメインなのか、山陽小野田市がメインなのかははっきりしない。その意味で（基本的な目標）内の基本姿勢の（1）（2）の順は逆にすべき。また、国外をあま

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

り意識せず、むしろ「わがまち（市民）の大学」ということを明記するべきである。

- 委員 D について、メニューをつけたほうが分かりやすい。
- 委員 E について、地域や企業との関わりというのを具体的に入れておいたほうが良い。インターンシップ、地域外部機関や卒業研究、産学官連携などについて具体的な表現があったほうが良いと思う。
- 委員 F について、大学内部の重要組織である経営審議会、教育研究審議会の位置づけを含めて記載すべきである。
- 委員 G について、先ほど出てきたが、「学修」は誤字ではないと分かったが、学習と学修が混同しているのではないか。
- 委員 H について、キャリア教育は資格取得や就職活動などに必要な講義教育であり、キャリア支援は個人指導の色彩が強く、両者の意味は別物なのではないか。
- 委員 I について、「第2-3 研究に関する目標」の「(1) 研究活動の活性化」において、大学研究の活性化や活動度の目安としては、文部科学省の科学研究費補助金申請や共同研究、受託研究の数と内容が挙げられることから、具体的な表現があったほうが良いのではないか。
- 委員 J について、「第2-3 研究に関する目標」の「(2) 研究成果の集約と公表」において、国内外の学会投稿発表論分数は、大学の評価のみならず教員評価の最重要項目（特に大学院教授の合格資格は査読校閲審査のある投稿論文数でほとんど決定される）であることから、「学会等によって国内外に発信する」とすべきである。
- 委員 他大学のように、教員評価を給与システムに直結させ、「学生の教員評価」という言葉を追加し、情報発信をしていくことで大学の信頼に繋がっていくのではないか。また、山陽小野田市立大学だからこそ、評価の中に「地域貢献」という評価を入れて、地域への貢献ということが示したら良いと思う。

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

- 事務局 「地域貢献」は自己点検評価の中に入る。そこで、具体的に自己点検表と学生の評価で昇進や給与関係が決まっていく。
- 委員 L について、「第4-2、教育研究組織の見直しに関する目標」において、「大学資格認定取得の早期実現」を追加してはどうか。これは、現在主要な公私立大学のほとんどが大学資格認定を取得する中、山口東京理科大学では大幅な定員割れや経営状況の影響もあってか、取得されてないと思うが、如何か。
- 委員 M について、「自己収入の増加に関する目標」において、「定員確保のため、大学宣伝の強化を図る」旨の追加記述をした方が良いと思う。
- 委員 授業料は合格通知を出したら、すぐは払わなければならないのか。それとも最終的に決めたときに払うのか。
- 事務局 入学金の一部を期限までに納めていただければ、入学の資格がとれる。
- 委員 N について、「第6、自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」の表現について、「教育研究評価及び当該状況・・・」という表現にしてはどうか。
- 委員 O, P, Q については関連があるのでまとめる。Oは中期目標についてだが、中期目標を読んでも6年度の大学のイメージが湧かない。これをどう大学が運営に反映できるのか分からない。Pについて、「基本的な目標」の基本姿勢(2)の中の「教育研究体制の整備・充実に努める」は基本姿勢にあたらぬのではないのか。Qについて、基本目標とは大きく言えば、「人材の育成」「地域貢献」ではないのか。これを盛り込んでもう少し分かりやすくしてほしい。
- 委員 続いてRについて、どういう大学か・これからどちらに向いて進むか、ということを示すものなのに、この目標では分からない。
- 委員 S について、多くの意見を含めて全体を修正してみた(別紙)。特に、山口東京理科大学は山陽小野田市が設置する大学であ

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

り、市民の豊かな暮らしを目指すための高等教育機関であることから、地域を曖昧にせずに山陽小野田市（経営主体として）を全面に出した方がいい。山陽小野田市が「公立大学を持つ」ということで申請段階での協議もあったと思うが、そうした内容等を記載すべき。また、外部資金を除いた基礎的な運営経費（授業料と運営費交付金）でのシミュレーションや交付税減額への対応も含め、安定した経営といった表現をするなど財務をしっかりとしてほしい。

事務局 交付税措置額のうち、毎年何%程度の運営費交付金を充て、将来の施設整備についていくら積み立てていくかを中期計画に入れることになる。

事務局 研究費は、ベースとして渡すものは予算化して公表する。それ以上必要な場合は、外部資金をとってきてもらう。成果を出した方は教員評価に反映する。

事務局 まず、山陽小野田市あるいは山口県が出てくるので、そこをどう捉えるかということは整理しておく必要がある。最後の財務に関しては、中期計画で出てくるにしても、市としてしっかりとしてほしいということを示していく必要があるのかと思う。

委員 「基本的な目標」における山陽小野田市に貢献できる人材育成については、地域貢献だけでは教員のモチベーションの問題もあり、もっと学問的な自由を認めた方がいい。

委員 薬学部の設置についての記述をどのように、どの程度までするか（許されるのか）。

委員 教育的な面としては、これまでの山口東京理科大学の教育研究を踏襲せざるを得ないが、その中に公立（市立）大学としての役割を入れてはどうか。

委員 学生が地元に残るよう、近隣の大学や高専等との連携を図るとともに、地域産業との連携を進めることが重要である。

事務局 薬学部を入れると新たな理系教育になるということもあるので、参考にさせていただきたい。

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

- 委員 続いて T について、現教育長の「自分の足で人生を歩くことのできる 15 歳を世に送り出す」という思いは非常に共感できる。そこで、大学卒業時の 22 歳までも対象として山陽小野田市の教育の取り組みとしてはどうか。「キャリア開発プロジェクト」を打ち出し、ディベート力・プレゼン力・英語力・コミュニケーション力・ソーシャルスキームなどを実施し、学生に社会人基礎力を身につけてもらう。今のグローバル社会では、英語力というのは非常に重要になってきているが、受験科目に英語が無いというのはどうなのか。
- 委員 公立化になると受験科目はどうなるか。
- 事務局 センター方式では、英語が入っているが、独自試験では、理科と数学だけである。
- 委員 次に U について、「コミュニティスクールとの関わり」である。本市にはせっかく市立大学があるので、コミュニティスクールの延長線上に大学も含めてはどうか。例えば、一般教養の授業で、退職した校長の先生を外部講師として来てもらう。また、「キャリア開発プロジェクト」の指導においても、外部講師を入れたら、財務的にも随分違うのではないか。
- 委員 外部講師はいるのか。
- 事務局 いる。
- 委員 わがまちの大学に対して、役立ちたいと思う市民は多いと思う。地域の方を使ってすることは出来ないのか。
- 事務局 地域の方もたくさんいる。
- 委員 学びの場を提供してもらい、外部聴講生制度で学びたい。
- 事務局 それは市民に限って、文化教養講座のように無料等で行いたいと考えている。また、今でも地域の活動に学生が参加し、それが単位の 1 つになっている。ただ、コミュニティスクールは、地域教育協議会が評価し、一方大学は経営審議会と教育研究審議会に評価されるので、そこが小中学校のコミュニティスクールとは異なる。あくまで、ボランティアの方の受け入れな

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

どには門戸を開いて、協力していただけることはやってもらうということになる。

委員 生徒は宇部市から来る生徒が多いのではないか。

事務局 37%から40%である。教員の大部分は宇部市に住んでいる。

委員 今の話からすると、生徒の大部分が宇部市から来ているが、住む場所を限定することはできないのか。

事務局 居住地は憲法で定められた個人の自由であるため、山陽小野田市に住民票がないと入学を認めない、ということとはできない。例えば入学式の中で市長からのお願いとして「市内に住んでほしい」という話はできると思う。

事務局 この問題は大学というよりは、「山陽小野田市に住みたい」と思わせないと駄目だと思う。それは市の違う分野の政策になると思う。

委員 入学金については今後どうなるのか。

事務局 次の4月に入学される方は、山陽小野田市内の高校又は市内に住民票をおいている方が入学金に差がある。住民票は6か月前までに移しておかなければならない。

委員 次にコンパクトなまちづくりとの関わりについて、「地域コミュニティの拠点化」というのが中期目標の中にあっただが、この拠点地域はどこになるのか。

事務局 コンパクトなまちづくりについては、市の施策であり、一方中期目標は大学に対してのものなので、示すところが異なる。

事務局 コンパクトなまちづくりというのは、広がっているところを一箇所に集めて利便性を高めていく、人口集積のことである。人口集積されたところの世代間交流は他の施策で現在行っているところである。地域に根差した大学というのは、大学が地域に対して何ができるのか・地域が大学に対して何ができるのかということであり、そこは考えていかなければならないと考えている。

委員 Wについて、外部講師の活用に関しては先程申し上げたとお

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

りである。Xについて、隣の宇部市には、国立の山口大学工学部・高校短大一貫教育の宇部高専があり、両方とも工学部系である。山陽小野田市立大学の魅力を受験生にアピールするためには「地域とのつながり」というメリットを強調することが必要であり、そのことが市民の理解につながると思う。

委員 中期目標については以上だが、他に何かあるか。

委員 市として行政的な面で何か付与することがあるのであれば入れていただきたい。

議題3

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の役員報酬等の支給基準について【資料3-1、3-2、3-3】

事務局 この件については、本来は公立大学法人設立後に審議していただくことになるが、役員報酬をこれから検討していくにあたり参考のためにご意見を伺いたい。委員の皆さんからは以下の通りご質問とご意見があった。

▽質問

- ・公立化後の理事長と学長の年俸はどうなるのか。
- ・公立化後の教授職の給与・年俸との比較はどうなのか。
- ・市民病院長及び副院長の給与はどのぐらいなのか。

▽意見

- ・非常勤理事への報酬が一日3万円は多すぎる。通常は1万円程度ではないのか。
- ・理事長と学長の年俸は5万円程度上げるべきではないか。
- ・理事長は最低でも副市長クラス、学長はそれより少し低く設定すべき。（研究機関、企業等との共同開発、研究への意欲高揚のため）

委員 これらは市長に伝えていただければと思う。

事務局 ご指摘やご意見を一覧表にまとめ、庁議にかける。

委員 それでは、よろしいか。

第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

事務局 次回開催までに、庁議を一度開いてから、委員会を開催するようになるので、少しお時間をいただくようになる。